

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 01 07	中期総合計画主要施策番号		3-02 3-03	担当課	部・課	衛生部 医療政策課	
事業名		小児初期救急医療体制整備事業					内線	2619	
							E-mail	iryu@pref.nagano.jp	
事業の概要	事業の目的	・夜間に特定の場所で診療を行う(センター方式)ほか、電話相談の実施や急病時の対応ガイドブックを作成することにより、保護者が夜間でも安心して受診できる小児救急医療体制の整備を行う。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)]							
		・軽症者を含む多くの小児患者が休日、夜間の病院を受診する状況にある。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)]							
	要等	事業内容	・小児救急患者のための夜間診療を「センター方式」により行っている医療機関の取組について補助する。 補助対象経費 運営費(給与費、材料費等) 補助率:1/2(県)1/2 補助対象施設 夜間診療を「センター方式」により行っている医療機関						
・夜間における小児患者の保護者向けの電話相談事業を実施する。 相談日時 毎日午後7時から午後11時まで									
・急病時の対応ガイドブックの作成 乳幼児の保護者向けのガイドブックを作成し、急病時における知識の普及啓発を図る。 作成部数 80,000部 配布先 市町村・保健所									
実施期間		H16 ~	根拠法令等	長野県保健医療計画、小児初期救急医療体制整備事業補助金交付要綱					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	・保護者が夜間でも安心して受診できる小児救急医療体制を整備する。 (平成24年までにすべての二次保健医療圏における夜間の小児初期救急医療体制を確保する。) ・保護者に対して電話相談で適切な助言を行い、小児科医の負担軽減を図る。		・目標に向け夜間の小児初期救急医療体制の確保に向けて整備を推進する。 ・電話相談に適切に対応する。			・7地域の二次保健医療圏において、センター方式による夜間の小児初期救急医療体制が確保されている。 ・2290件の電話相談に対応し、93.8%の相談者に納得(やや納得)していただいた。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	35,015	29,420	26,843	国庫・県単	国庫・県単	
	決 算 額 (B)		千円	25,329	27,436		実施方法	補助・委託	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	23,007	23,565	23,902	歳出節別	需用費:398	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.10	0.20	0.10	内訳等	役務費:358 委託料:5,805	
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	26,043	28,866	27,558	(単位:千円)	使用料及び賃借料:112 補助金:20,763	
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	夜間の小児初期救急医療体制の整備地域		地域	8	8	8	8地域の内訳はセンター方式7+木曽1		
	1日当たりの電話相談件数		件/日	3.09	6.27	7.00	急病時の対応ガイドブックの作成 作成部数 80,000部 配布先 市町村・保健所		
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・小児科医が不足する状況から、事業のニーズは引き続き高いと判断される。 ・各保険医療圏に夜間の小児初期救急医療体制を確保するために、県が積極的に関与する必要がある。 ・限られた小児科医数で医療体制を確保するために、効率的に事業が運営されている。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		・佐久、北信保健医療圏において、センター方式による夜間の小児初期救急医療体制が未整備である。(木曽保健医療圏については、センター方式による体制整備が難しいことから、県立木曽病院による夜間の小児初期救急医療体制が確保されている。)							